



インターネットとの向き合い方



二セ・誤情報

にだまされないために

《 第2版 》

(2025年2月改訂)



\\ この講演で持ち帰っていただくもの //

要注意!



だまされやすいのは

?

?

を持っている人

はじめに

この講演では、一般的に使われている 「フェイクニュース」という単語を使っていません

現在「フェイクニュース」という単語は、様々な意味で使われています。

フェイクニュースと 似た意味をもつ単語例

- 嘘
- デマ
- 陰謀論
- プロパガンダ
- 誤情報
- 扇情的なゴシップ
- ディープフェイク など

また、フェイクでないものを「フェイクニュース」と批判しているケースもあります。

「フェイクニュース」は、定義がまだ決まっていない曖昧な言葉なので、
この講演では「**ニセ・誤情報**」という表現を使います。

INDEX

目次



PART 1

「ニセ・誤情報」ってなに？



PART 2

私たちはなぜだまされるのか？

PART 3

だまされたらどうなる？

PART 4

だまされないためには？

PART 5

最後に大切なことを

※資料の出典は最終頁にまとめて記載しています。

INDEX

目次



PART 1

「二セ・誤情報」ってなに？



PART 2

私たちはなぜだまされるのか？

PART 3

だまされたらどうなる？

PART 4

だまされないためには？

PART 5

最後に大切なことを

種類は 2 つ

1

ニセ情報

ディスインフォメーション



2

誤情報

ミスインフォメーション



「ニセ情報」とは？

1

ニセ情報

ディスインフォメーション



- **意図的／意識的** に作られたウソ
- **虚偽** の情報

ニセ情報の具体例

あの事件や災害は陰謀によるもの



事件・災害の際、

「このテロは世間の目を逸らす政府の陰謀」

「あの地震は地震兵器のせい」

という主張を目にすることがあり、そういった情報は **意図的に作られている** ことがあります。

2013年のボストンマラソン爆破事件では、米政府の策略だとするニセ情報が拡散したと言われています。

日本でも地震や台風の度に、例えば

「災害を引き起こす装置によるもの」

などのデマが流れやすいとされています。

種類は 2 つ

1

ニセ情報

ディスインフォメーション



2

誤情報

ミスインフォメーション



「誤情報」とは？

- 勘違い／誤解により
拡散した間違い情報

2

誤情報

ミスインフォメーション



誤情報の具体例

世界で拡散「新型コロナの誤ったセルフチェック」



マル得情報



医療関係者の方の話として、
深く息を吸って10秒我慢し、咳が出たり
息切れするなどの不快な症状が出なければ、
感染の可能性は低いようです。

▼ WHOによる実際の注意喚起ページ ※1

The most common symptoms of COVID-19 are dry cough, tiredness and fever. Some people may develop more severe forms of the disease, such as pneumonia. The best way to confirm if you have the virus producing COVID-19 disease is with a laboratory test. You cannot confirm it with this breathing exercise, which can even be dangerous.

FACT:

Being able to hold your breath for 10 seconds or more without coughing or feeling discomfort DOES NOT mean you are free from the coronavirus disease (COVID-19) or any other lung disease.



World Health Organization

#Coronavirus

#COVID19

コロナ禍の2020年4月。

「深く息を吸って10秒我慢できれば
新型コロナに感染していない」

という **誤ったセルフチェック** が、
メッセージアプリ経由で拡散しました。

これは世界規模で広まった誤情報で、
WHOも代表的な誤情報の一つとして
注意喚起しています。（左図）

政治的なニセ・誤情報の具体例

根拠のない情報が選挙に影響を与える可能性がある



選挙が近づくと、特定の政治家に対して、

「外国と通じている」

「増税主義者だ」

「もうすぐ逮捕される」

といった根拠のない情報を流し、世間に誤った印象を植付けるといった事例が起きることがあります。

それらが、**一人ひとりの判断に影響**を与えてしまう可能性もあるのです。

災害時に広まるニセ・誤情報

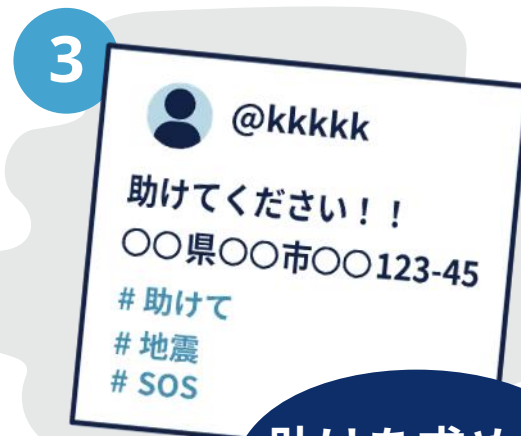
ニセ・誤情報
ってなに？



実際の被害
とは異なる
ニセ・誤情報



根拠のない
犯罪情報



助けを求める
ニセ情報



募金詐欺



科学的に
あり得ない
陰謀論

ニセ情報の具体例

人の欲望や不安につけこむニセ情報



SNSサービスなどで

「投資の必勝法」

「簡単に稼げる副業」

「お金を配ります」

「これだけ儲かった」

などの投稿に反応した人をターゲットにする **詐欺** が発生しています。

著名人の画像を勝手に使い、

お金が儲かるように見える画像を添えるなど、巧妙な手段が使われています。

INDEX

目次



PART 1

「二セ・誤情報」ってなに？



PART 2

私たちはなぜだまされるのか？

PART 3

だまされたらどうなる？

PART 4

だまされないためには？

PART 5

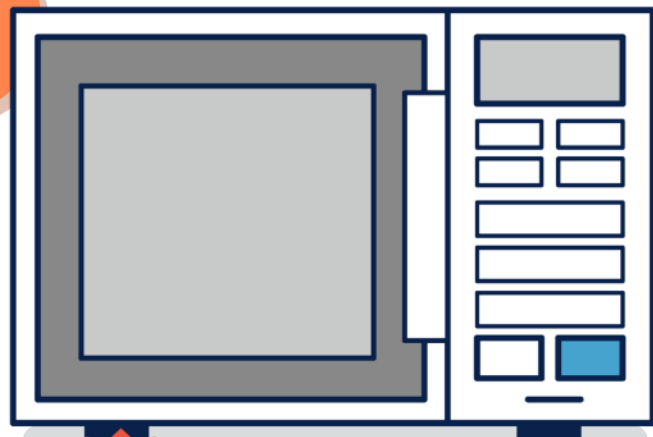
最後に大切なことを

Q

同じ商品ですが・・・

気になるのは **A** と **B**、どっち？

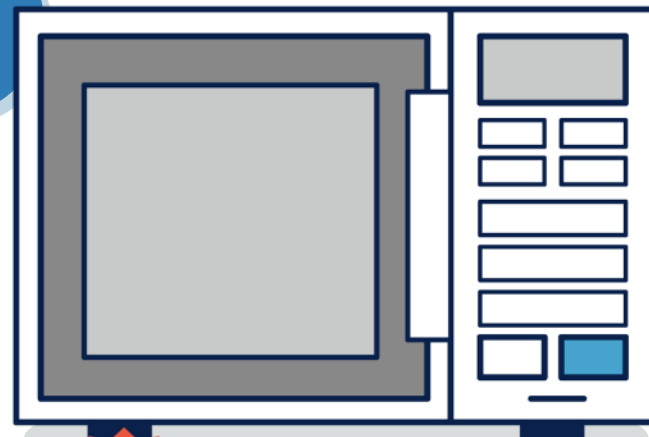
A



安 値引き品

5,980円

B

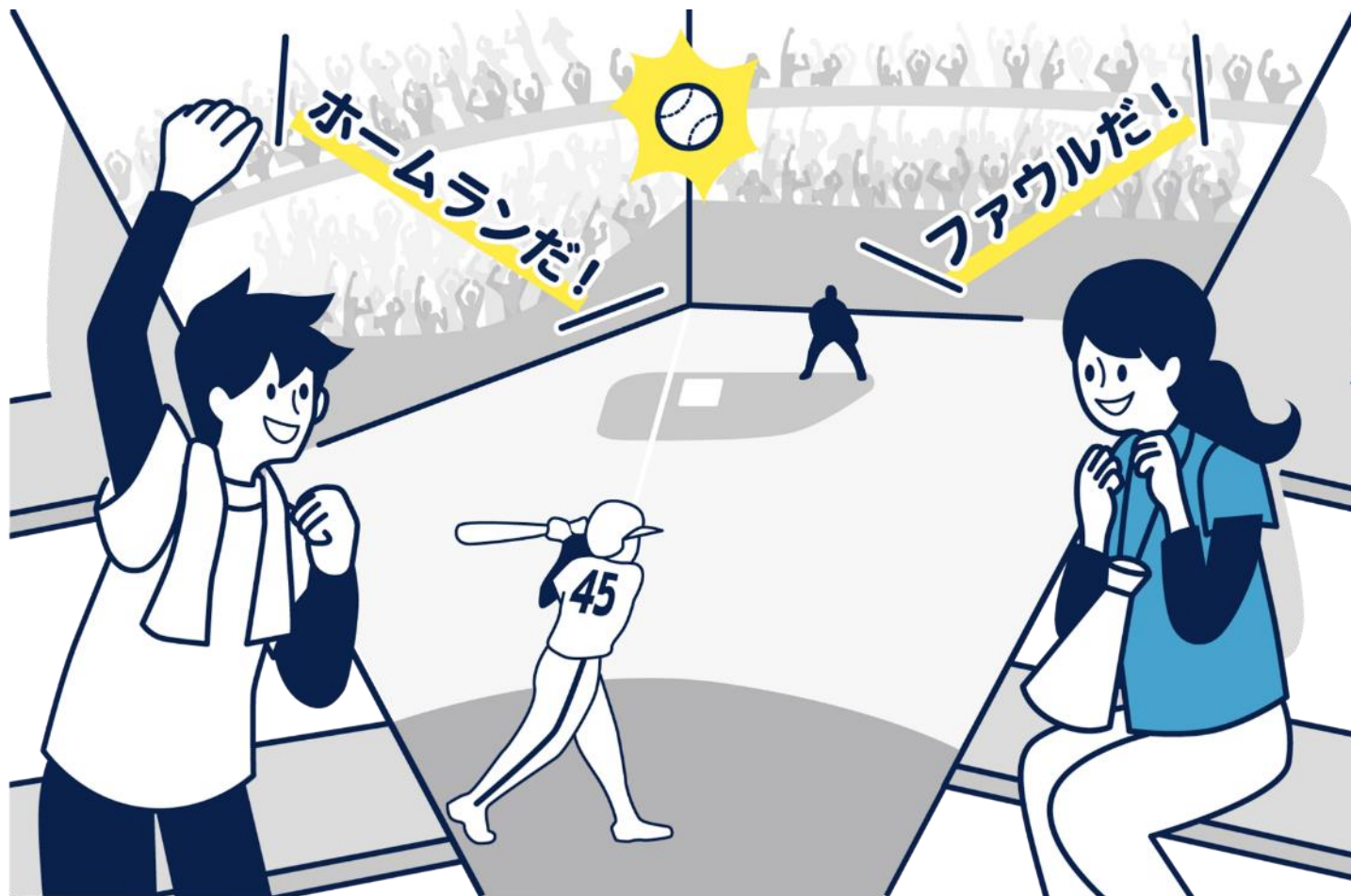


安 ~~29,800円~~

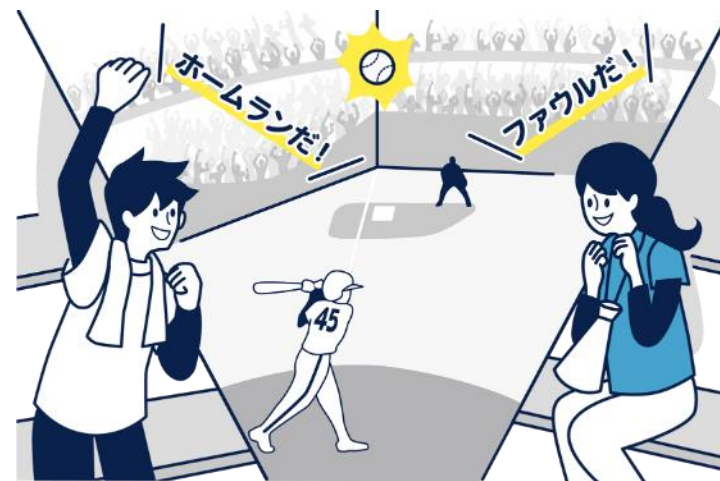
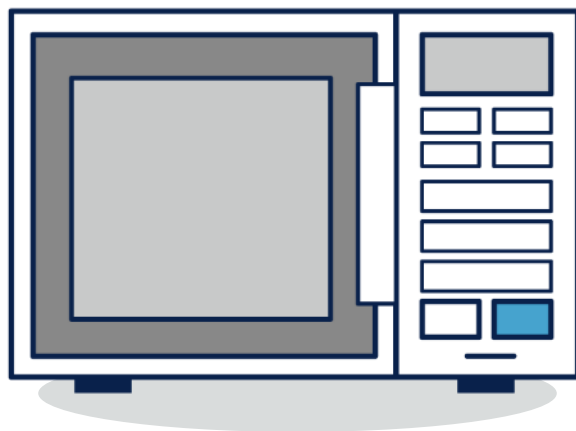
5,980円

Q

同じ光景を見ているのに、なぜ？



心理現象「認知バイアス」のせいかも？



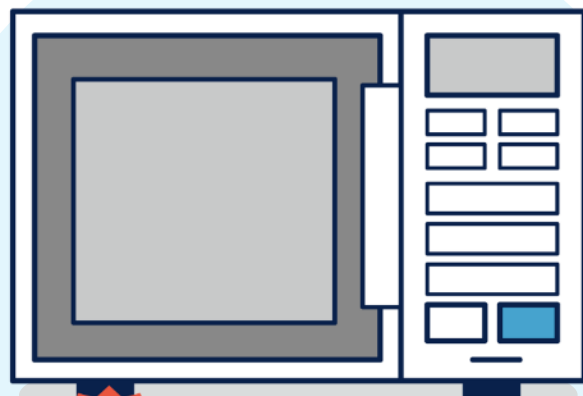
人は、自分の願望や経験、思い込み、周囲の環境によって、**無意識のうちに合理的ではない、かたよった判断をする**ことがあります。

「認知バイアス」と呼ばれるこの現象は、私たちの生活の様々な場面で起きています。

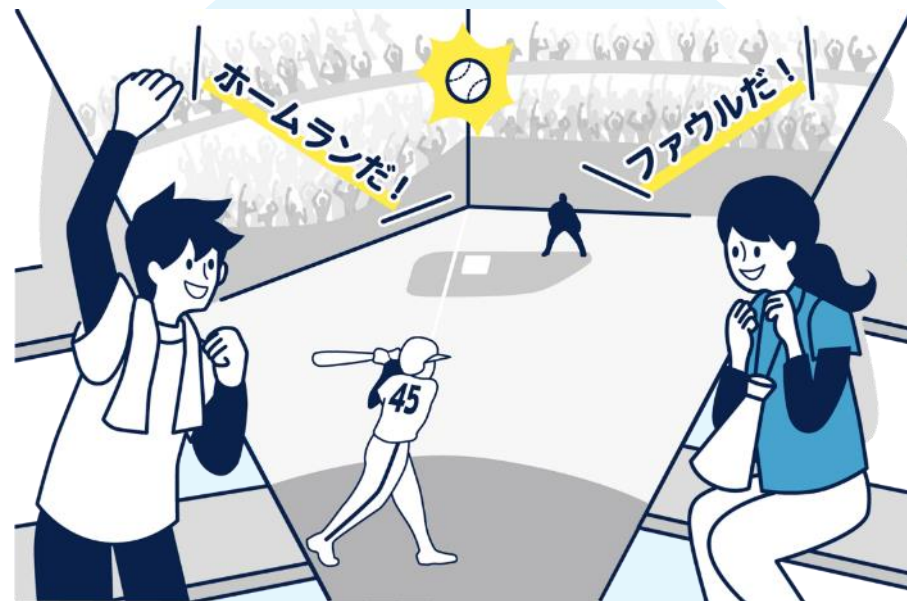
この現象を別の言葉で表現すると ... ?

「認知バイアス」を別の言葉で表現すると...

人は **信じたいもの** を信じる



安 29,800円
5,980円



「認知バイアス」を別の言葉で表現すると...

人は **信じたいもの** を信じる

誰かの
役に
立てそう

みんなに
広めたい

意外だ

許せない！

やっぱり正しい！

不安だ...

怖い!!

私たちは **興味・不安・怒り** で情報を拡散させる

誰かの
役に
立てそう

みんなに
広めたい

意外だ

許せない！

やっぱり正しい！

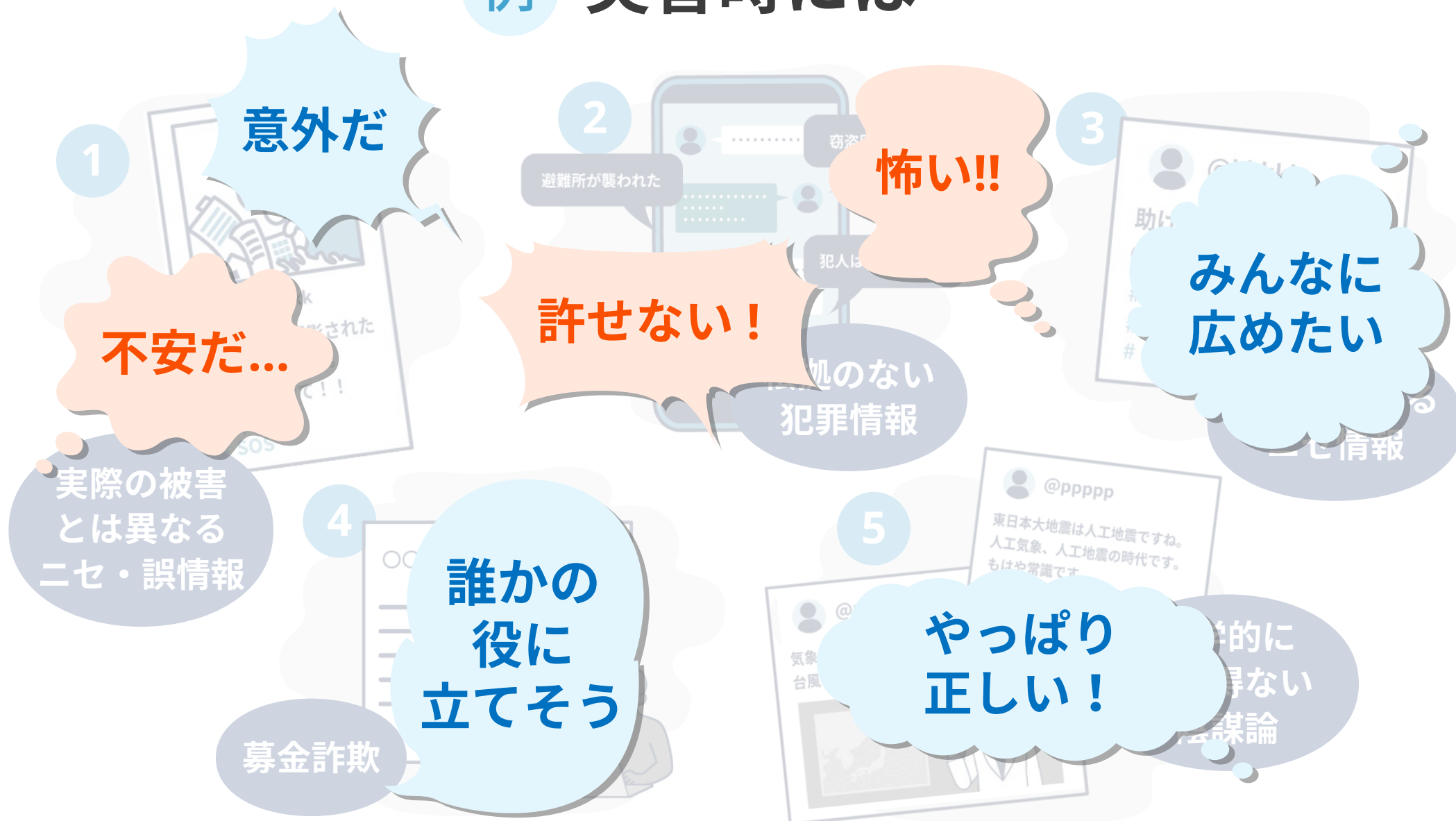
不安だ...

怖い!!

例 災害時には・・・



例 災害時には…



「二セ・誤情報」には、
誰かに伝えたい要素、感情に訴える要素があるため
共感・拡散されやすい

誰かに伝えたい 要素

誰かの
役に
立てそう

みんなに
広めたい

意外だ

やっぱり正しい！

感情に訴える 要素

許せない！

不安だ...

怖い!!

例 こんな情報、拡散していませんか？

誰かに伝えたい要素

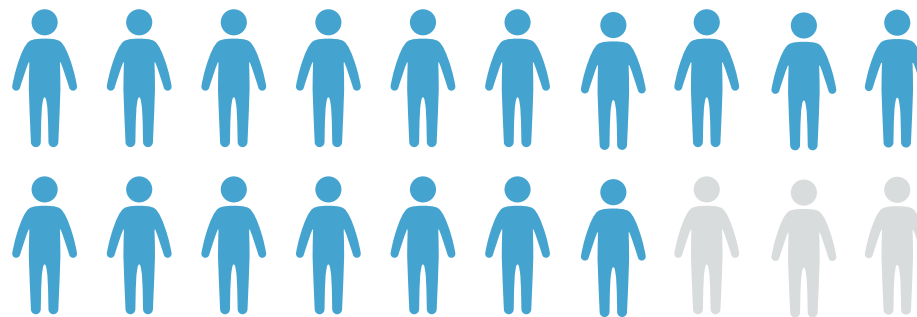
これは 出回っていない
情報です！大切な人に
共有してください！

感情に訴える要素

こんなこと 許せません！
同じ被害 がないよう
拡散してください！



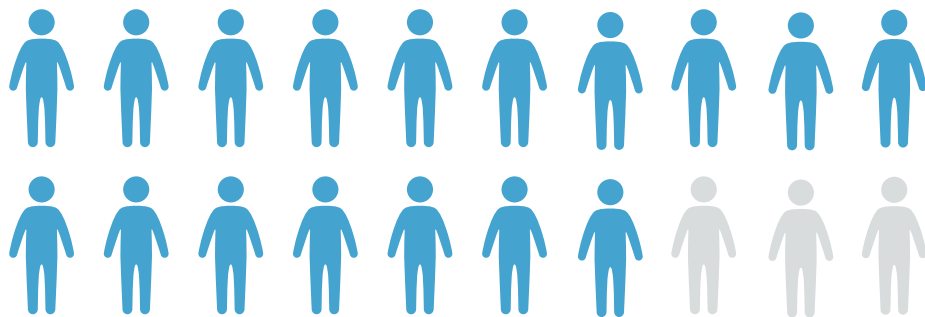
「ニセ・誤情報」に
気付かない人



85%

※2

「ニセ・誤情報」に
気付かない人



85%

※2

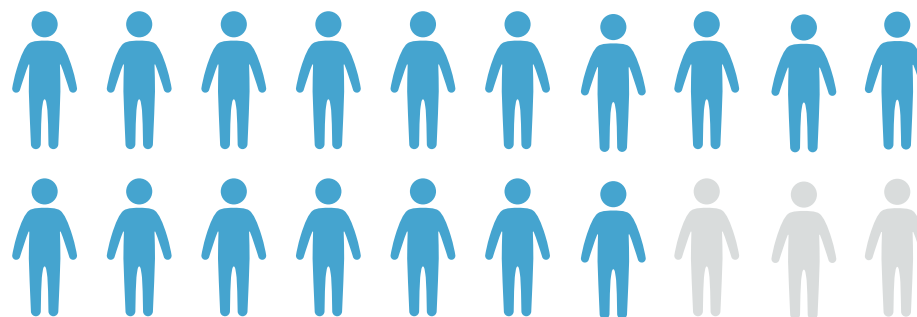
「ニセ・誤情報」を
拡散する人



17%

※2

「ニセ・誤情報」に
気付かない人



85%

※2

「ニセ・誤情報」を
拡散する人



17%

※2

「ニセ・誤情報」の拡散スピード

「真実・事実」の6倍

※3

「ニセ・誤情報」に気付かない人は 「フィルターバブル」に囲まれている可能性も…

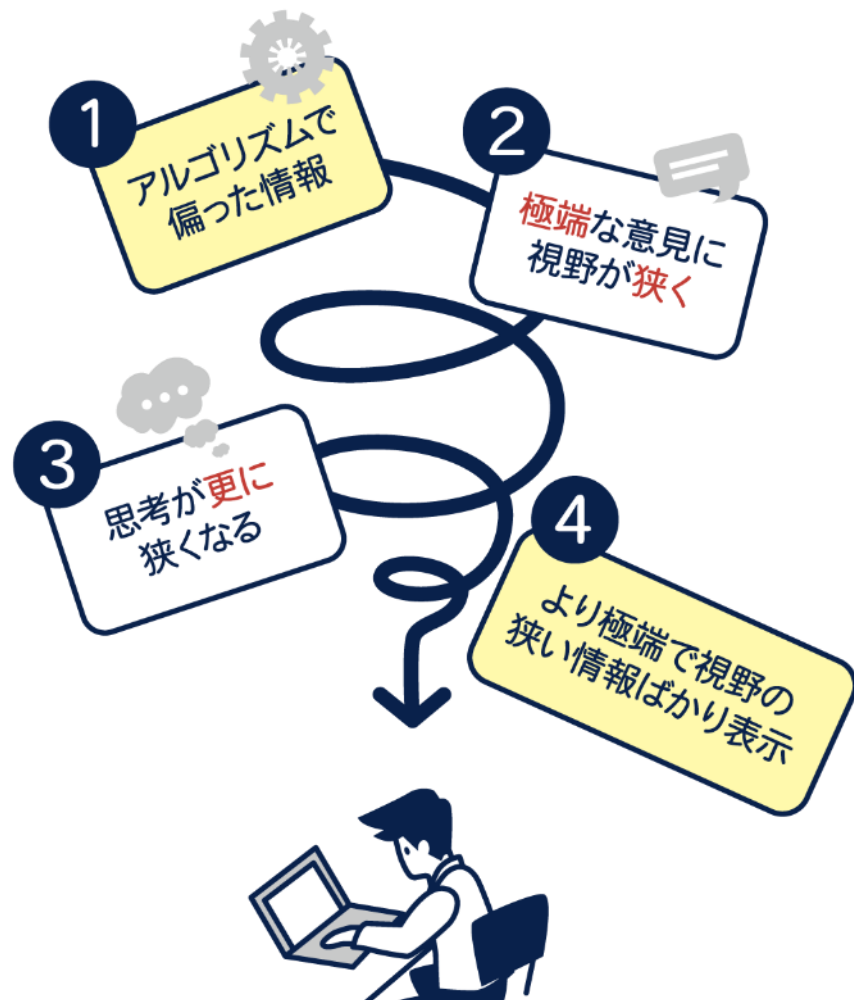


ネットニュース、SNS、検索サービスなどには、その人が欲しがりそうな情報を分析し同じような情報を表示する「アルゴリズム」と呼ばれる機能があります。

「アルゴリズム」によって知らぬ間に
かたよった情報にばかり接する現象を
「フィルターバブル」と言います。

その結果、それらの情報が
世の中の標準だと誤解する恐れがあります。

「フィルターバブル」は気付けない！



アルゴリズムは考え方、好みを分析し、その人が心地よいと感じる情報ばかり洪水のように流し込めます。その結果、

「物事を極端にとらえ、狭い視野で考える人」となっていきます。

そして心地よい情報ばかり読むことになっても、フィルターバブルは泡のように透明なので本人はそれに気が付きません。

そんな状況に「二セ・誤情報」が入り込めば...
何が起きるか分かりますよね？

生成AIでニセ・誤情報が**巧妙化**

事例 1



映像・音声を自由に作り出せるAIが普及し、誰でも気軽に利用できるようになった結果、**詐欺やニセ・誤情報**といった分野でも悪用され始めています。

例えば、オンライン会議に**AIが作り出したニセ社長**が出席し、その社長の指示に従って送金したお金が危うく騙し取られる寸前だった.....
という事件も起きました。

このような事件を実際に起こせるほど、AI技術は進歩しています。

生成AIでニセ・誤情報が**巧妙化** 事例 2

日本国内でも、災害時に生成AIを使って作成された **ニセの災害映像** がSNSに投稿され、それを本物だと勘違いした他のユーザが **拡散させてしまった** という騒動が起きています。

生成AIを使えば、誰でも簡単に精巧なニセ情報を作ることができます。

災害時にそういった情報を拡散させることは、本当に助けを求めている人の命を危険にさらし、また法的な責任も問われうる行為です。

ニセ・誤情報はなぜ作られるのか？

善意

1

政治的動機



誤解

承認欲求

2

経済的動機



知識の欠如

愉快犯

正義感

ニセ・誤情報はなぜ作られるのか？

1

政治的動機



支持する政党・政治家に有利な情報、
嫌いな政党・政治家を不利にする情報
を広めることで

自分が望む政治的状况

を実現したい・・・

こんな動機から、ニセ情報が作られる
ケースがあると指摘されています。

ニセ・誤情報はなぜ作られるのか？

ネットの時代を迎え、ニセ情報自体が
大きな経済的価値を持つよう
になりました。

誤った情報を広め、多額の寄付を集める、
自分の本を売りこむ……

得られる利益が大きくなるにつれ、
ニセ情報を広める仕組みも

「著名人に成りすます」

「有名人の画像を勝手に使う」など

悪質なもの になりつつあります。

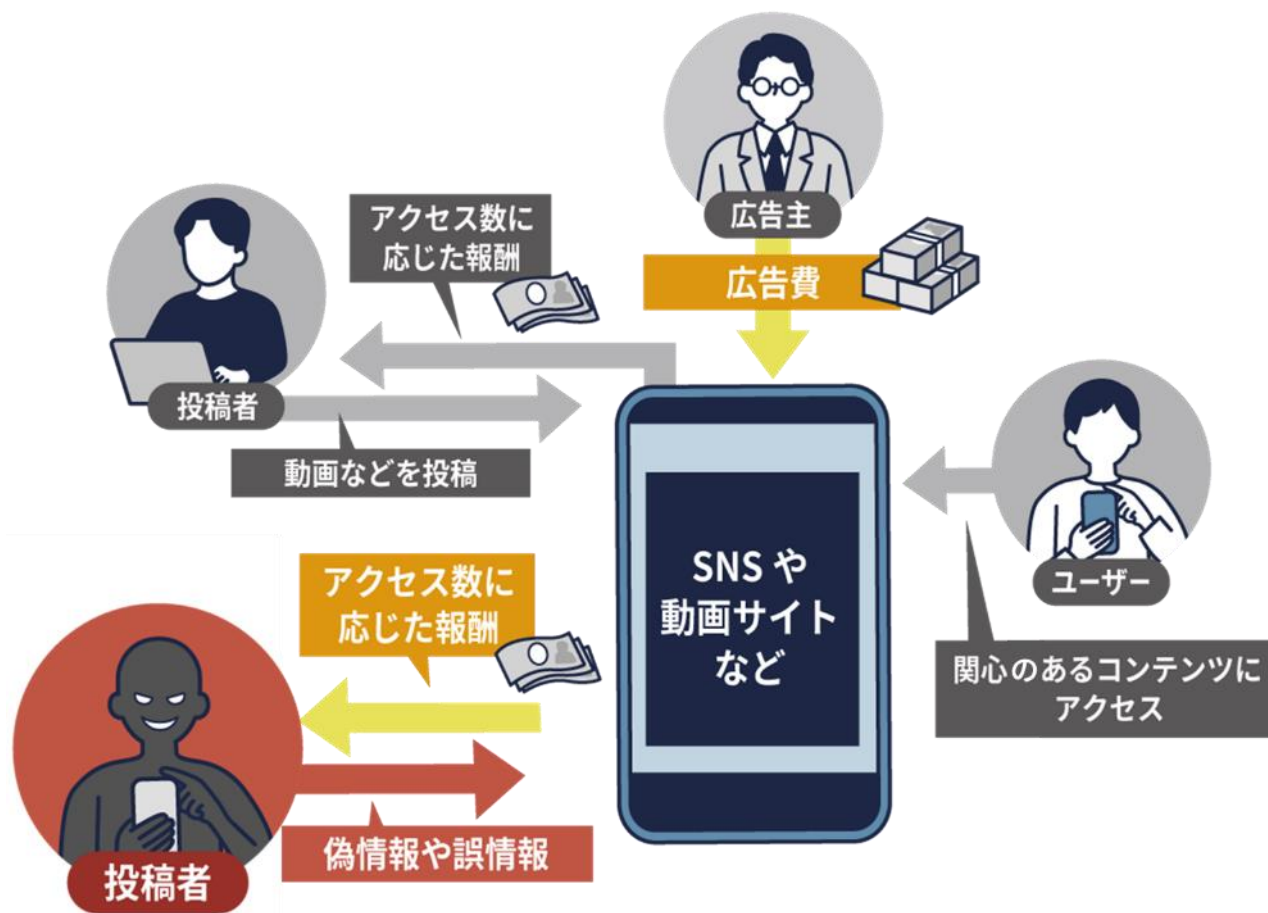
2

経済的動機



経済的動機が生まれる背景にあるもの

アテンション・エコノミー



ネットが普及した昨今、投稿や記事が多くの人に見られると、それに対する報酬を得られる仕組みが話題です。

目新しいニセ・誤情報を掲載すると **手間なく** 注目を集めることが出来るため、**収益のための** ニセ・誤情報が頻発していると指摘されています。

私たちはなぜだまされるのか？

ここまでのまとめ

私たちが騙されてしまう理由

理由 1 人は **信じたいもの** を信じてしまう

理由 2 ニセ・誤情報には **信じたくなる要素** がたくさんある

理由 3 ニセ・誤情報には **人に教えたいくなる要素** がある

理由 4 ニセ・誤情報には **誰でも** だまされる

理由 5 ニセ・誤情報は **すばやく拡散** してしまう

理由 6 **アルゴリズム** や **生成AI**、**アテンション・エコノミー**
がニセ・誤情報を加速してしまう

INDEX

目次



PART 1

「二セ・誤情報」ってなに？



PART 2

私たちはなぜだまされるのか？

PART 3

だまされたらどうなる？

PART 4

だまされないためには？

PART 5

最後に大切なことを

1 社会や経済が**混乱**することも…



新型コロナに関する二セ・誤情報の一つに
「**携帯の5G電波がコロナを広める**」
というものがあり、
海外では **携帯の基地局が破壊される**
事例が発生しました。

通信インフラの破壊は、社会の混乱を招く
重大な犯罪です。

2 消費活動に影響する可能性も…



- タレントに**こっそり**商品を宣伝させる
- 企業が**個人のふり**をしてクチコミを投稿する

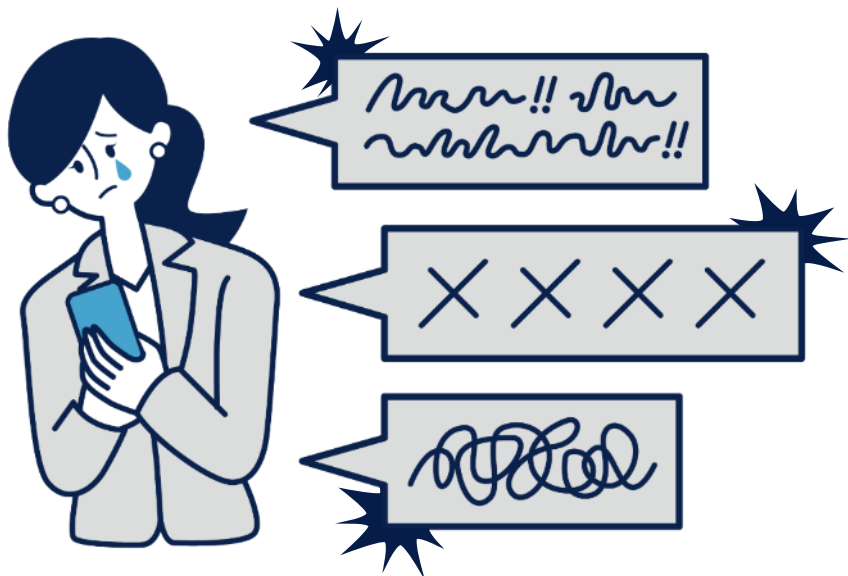
これらは **ステマ**（ステルスマーケティング）と呼ばれ、法規制されています。

サクラが「実際よりも著しく良い商品、お得なサービス」と **誤解させる違法な宣伝** 事例も…。

ステマは消費者の判断を誤らせるだけでなく、横行すると皆が疑心暗鬼となり、消費が冷え込むという指摘もあります。

3

「ニセ・誤情報」を信じて行動した結果 損害賠償責任を負うケースも…



あおり運転に関する事件で、
無関係にもかかわらず、ある人物が加害者の
関係者であるという誤った情報がSNSで拡散
され、**多くの中傷被害**を受けました。

その人物は**投稿者や拡散者の特定**を進め、
裁判を通じて**損害賠償を命ずる判決**が
下されています。

4 世の中があらぬ方向に進んでしまう可能性も…



2020年の米大統領選では
「ウィスコンシン州の投票率が
200%を超えた、バイデン氏による
不正が行われた証拠だ」などの

ニセ・誤情報拡散 がきっかけとなり、
のちにトランプ氏支持者が
ワシントンの連邦議会を襲う
という前代未聞の事件につながったと
指摘されています。

INDEX

目次



PART 1

「二セ・誤情報」ってなに？



PART 2

私たちはなぜだまされるのか？

PART 3

だまされたらどうなる？

PART 4

だまされないためには？

PART 5

最後に大切なことを

基本

まずは以下をチェック！



- ☐ **情報源** はある？
.....
- ☐ その分野の **専門家**？
.....
- ☐ **他では** どう言われている？
.....
- ☐ その画像は **本物**？
.....

Check 1

☑ **情報源** はある？



- その情報は**どこから、いつ**発信されたものですか？信用できますか？
- **根拠**となるモノは今も存在していますか？消えていませんか？
- 情報源が「**海外の**」ニュースや論文の場合、あなたはその情報源を**確認、理解**していますか？

Check 2

☑ その分野の **専門家**？



- その情報は、**専門知識**や必要な**資格**を持った人が、責任を持って発信しているものですか？
- その人は過去、ニセ・誤情報を発信して**批判**されていませんか？
- その人は関連する情報や商品を**売って**いませんか？

Check 3

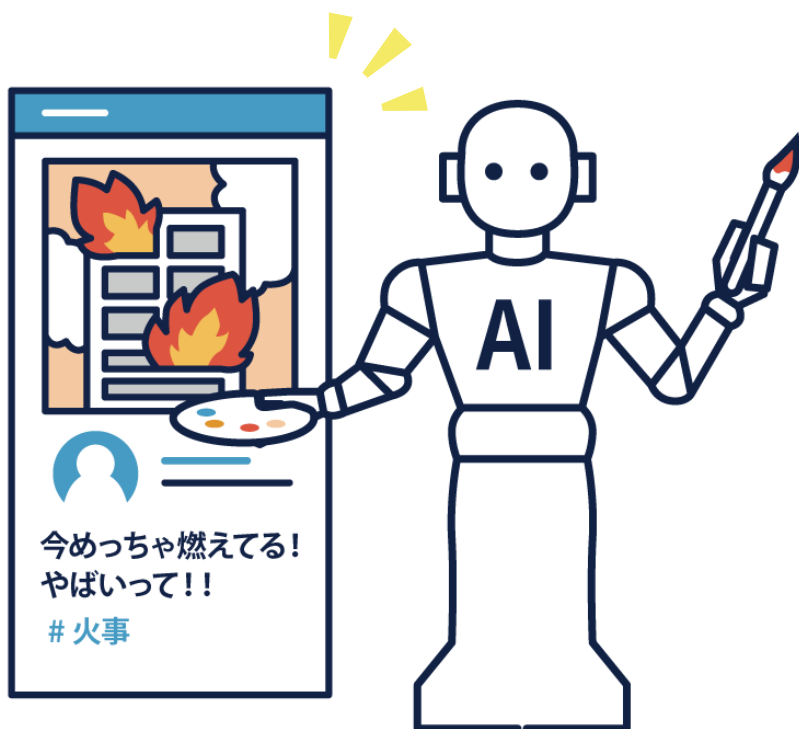
☑ 他では どう言われている？



- その情報について
他の人や**他のメディア**は
どのように言っていますか？
- その人の意見に
反論している人はいませんか？
- **別の内容**で報じているメディアや、
誤りであることを指摘している
メディアはありませんか？

Check 4

☑ その画像は **本物**？



- **臨場感のある画像**が添えられているから？
それだけで「本当」だと判断して大丈夫ですか？
- その画像は**生成AI**によって作成されたものではありませんか？
- その画像は勝手に盗用された、全く**無関係のもの**ではありませんか？

基本

これで基本をおさえました



☒ 情報源 はある？

☒ その分野の 専門家？

☒ 他では どう言われている？

☒ その画像は 本物？

応用

さらに以下もチェック！

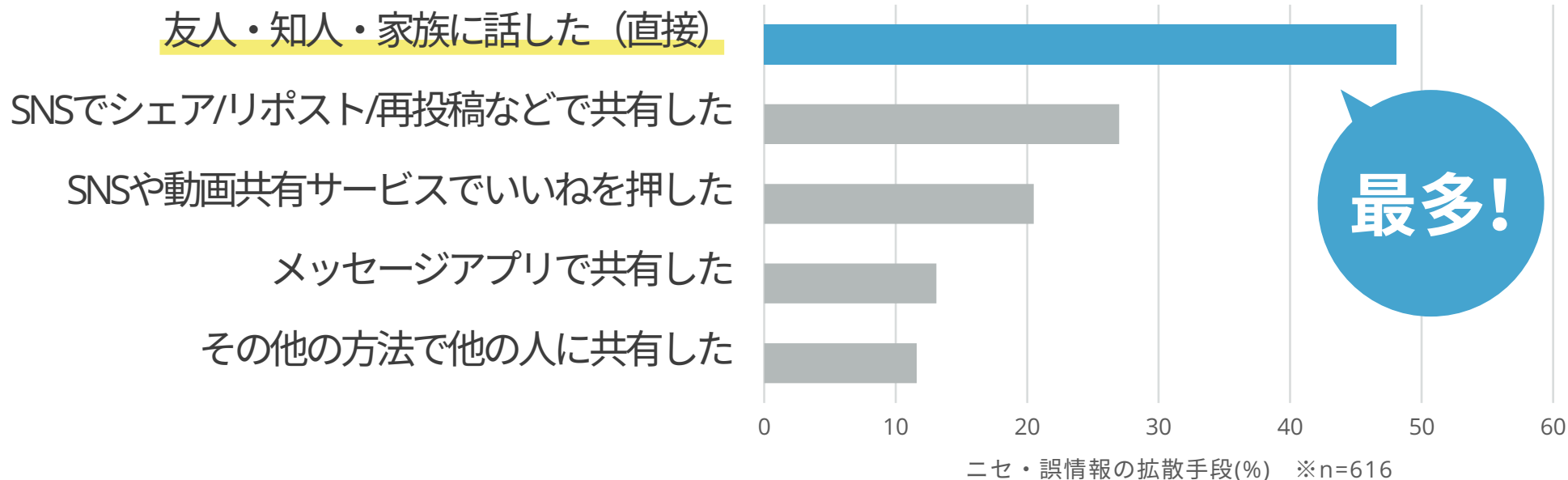


- ☐ 「**知り合いだから**」という理由だけで信じているのでは？
- ☐ **表やグラフ**も疑ってみた？
- ☐ その情報に **動機** はある？
- ☐ **ファクトチェック** 結果は？

Check 1

☑ 「知り合いだから」という理由だけで信じているのでは？

ニセ・誤情報を見た後、どう拡散したか？ ※2



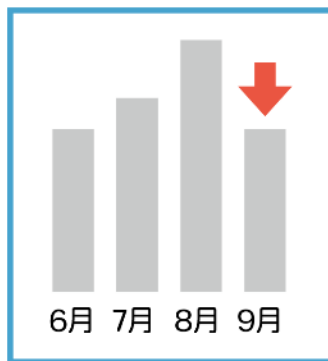
- コミュニケーション量が多い家族や知人からの情報は信じてしまいがちです（※4）。より慎重になりましょう。

Check 2

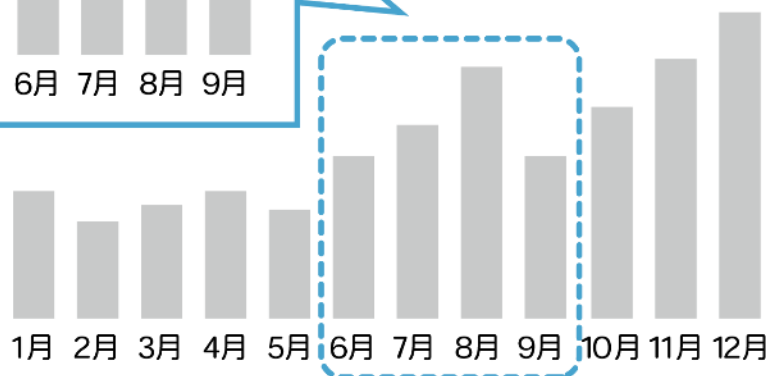
☑ 表やグラフ も疑ってみた？

Q

このダイエットは「成功」と言えますか？

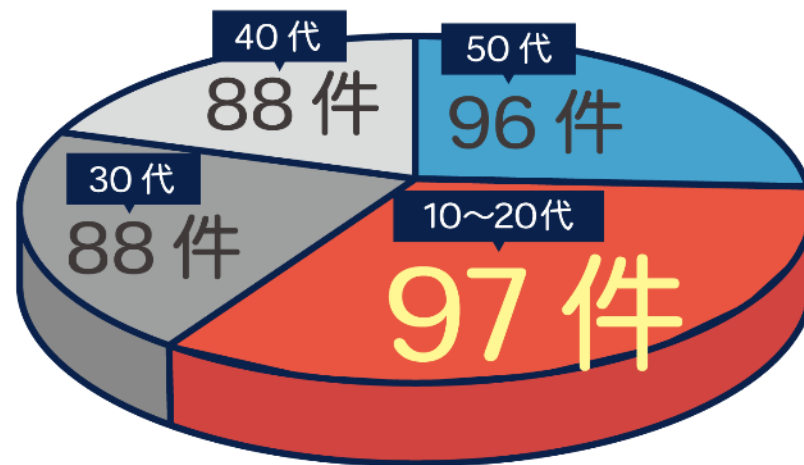


減量成功！



Q

この円グラフ、どこか変だと思いませんか？



Check 3

☒ その情報に **動機** はある？

- 意図的なニセ情報には、拡散させたい**動機**があります。
それに気付くためには...

Check 3

☑ その情報に **動機** はある？

- 意図的なニセ情報には、拡散させたい**動機**があります。
それに気付くためには...

そのニセ情報で、
誰が**得**をするか？ 誰が**損**をするか？

という視点で**冷静に見直して**みることが重要です。

Check 4

 ファクトチェック結果は？

様々なファクトチェック活動が見つかります

ファクトチェック

 検索

- ファクトチェックとは、情報・ニュースや言説が「**事実に基づいているか**」を**調査、公表**する営みのこと。大手メディアやネットメディア、非営利組織などが実施している様々なファクトチェックがあります。ニセ・誤情報を**判別するための手段**として活用しましょう。

正確さを段階で示す「ファクトチェックレーティング」

レーティングの一例

(特定非営利活動法人ファクトチェック・イニシアティブによる)

正確	事実の誤りはなく、重要な要素が欠けていない。
ほぼ正確	一部は不正確だが、主要な部分・根幹に誤りはない。
ミスリード	一見事実と異なることは言っていないが、釣り見出しや重要な事実の欠落などにより、誤解の余地が大きい。
不正確	正確な部分と不正確な部分が混じっていて、全体として正確性が欠如している。
根拠不明	誤りと証明できないが、証拠・根拠がないか非常に乏しい。
誤り	全て、もしくは根幹部分に事実の誤りがある。
虚偽	全て、もしくは根幹部分に事実の誤りがあり、事実でないと知りながら伝えた疑いが濃厚である。
判定留保	真偽を証明することが困難。 誤りの可能性が強くはないが、否定もできない。
検証対象外	意見や主観的な認識・評価に関することであり、真偽を証明・解明できる事柄ではない。

ややこしいことに...

世の中の情報は

**「正しい」「間違い」の
2種類だけではありません。**

- 情報の一部だけが誤り
- 今はまだ真偽を判定できない など

曖昧なものが、実はたくさんあります。

ファクトチェックを行う団体は、
それらを細かく分類して
客観性を保つ取組みを行っています。

応用

これで応用も確認できました



- ☒ 「**知り合いだから**」という理由だけで信じているのでは？
- ☒ **表やグラフ**も疑ってみた？
- ☒ その情報に**動機**はある？
- ☒ **ファクトチェック** 結果は？

ここまでのまとめ

だまされないためのチェック項目



基本

- ☒ **情報源** はある？
.....
- ☒ その分野の **専門家**？
.....
- ☒ **他では**どう言われている？
.....
- ☒ その画像は **本物**？

応用

- ☒ 「**知り合いだから**」という理由だけで信じていないか？
.....
- ☒ **表やグラフ**も疑ってみた？
.....
- ☒ その情報に**動機**はある？
.....
- ☒ **ファクトチェック**結果は？

それでもだまされる。 だから...



- **わからなければ**拡散しない
- **誰かを傷つける**なら拡散しない
- **医療・健康情報**は安易に
拡散しない



- 転送前に**ひと呼吸**
- **手を止めて**「間違いでは??」
- **異なる情報**が
出ていないかチェック

INDEX

目次



PART 1

「二セ・誤情報」ってなに？



PART 2

私たちはなぜだまされるのか？

PART 3

だまされたらどうなる？

PART 4

だまされないためには？

PART 5

最後に大切なことを

Q これは事実ですか？ 意見ですか？

〇〇選手は、
オリンピックで金メダルを取った 偉大なアスリートだ。



A 実は、事実も意見も含まれています

〇〇選手は、
オリンピックで金メダルを取った 偉大なアスリートだ。

客観的な**事実**

個人的な**意見**



情報には **事実と意見が混在** していることが多く、
自分が情報を発信する 際にも注意が必要です。

／ これらはすべて意見です ／

反発は
避けられない

今後議論を
呼びそう

不安の声が
聞こえる

懸念される

波紋が
広がっている

さいごに

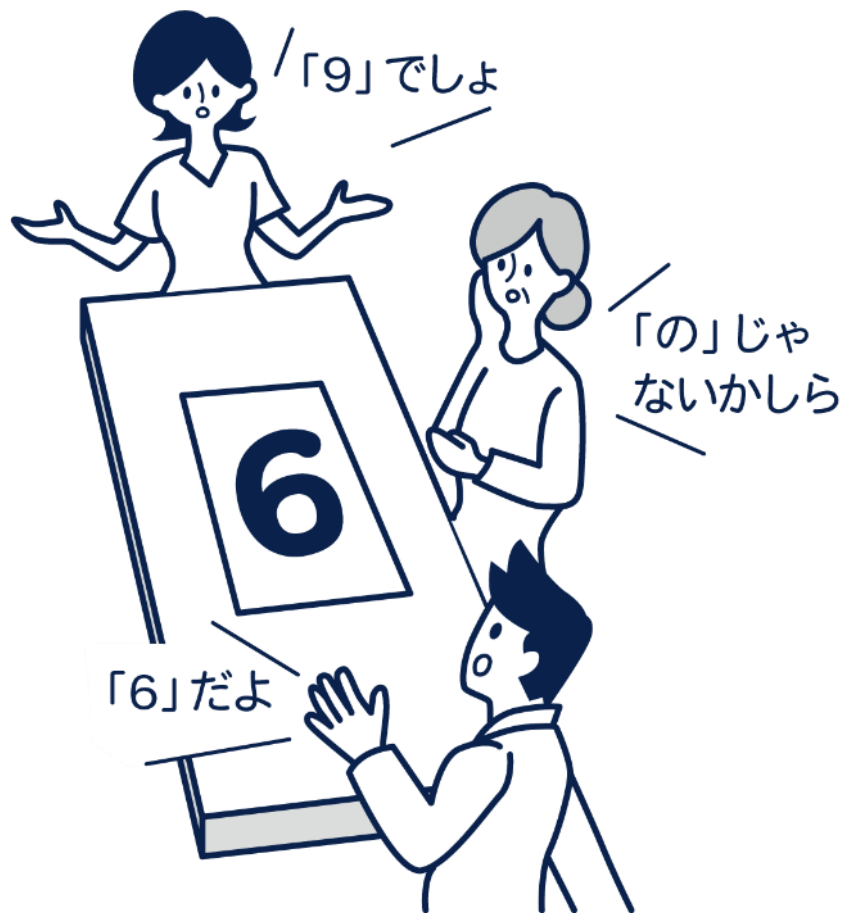
海外の学生団体 「The Education Tree」 より メッセージ

“
あなたが「正しい」からといって、
私が「間違っている」わけでは
ありません。

あなたが **私の立ち位置から**
見たことがない だけです。
”

さいごに

海外の学生団体 「The Education Tree」 より メッセージ



“あなたが「正しい」からといって、
私が「間違っている」わけでは
ありません。

あなたが **私の立ち位置から**
見たことがない だけです。

\\ この講演で持ち帰っていただくもの //

要注意!



だまされやすいのは

?

?

を持っている人

\\ この講演で持ち帰っていただくもの //

要注意!



だまされやすいのは

「自分はだまされない」

という 自信 を持っている人

出典

■ P11 ※ 1

WHO Webサイト 「Coronavirus disease (COVID-19) advice for the public: Mythbusters」 より
<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/advice-for-public/myth-busters>

■ P26, 27, 28, 51 ※ 2

山口真一ほか (2024). Innovation Nippon 2024 偽・誤情報、ファクトチェック、教育啓発に関する調査.

■ P28 ※ 3

Vosoughi, S. et al. (2018). The spread of true and false news online. Science, 359, 1146-1151.

■ P51 ※ 4

Bottger, P. C. (1984). Expertise and air time as bases of actual and perceived influence in problem-solving groups. Journal of Applied Psychology, 69(2), 214-221.

／ ご清聴ありがとうございました ／

インターネットとの向き合い方

ニセ・誤情報

にだまされないために

発 行 者 総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2

発 行 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

監 修 山口 真一 （国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授）
小木曾 健 （国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 客員研究員）
古田 大輔 （株式会社メディアコラボ 代表）

デザイン 渡部 玲花 （ワタナベスライドデザイン）
伏見 まどか （Fushimi Design）